

# アリーナの整備・運営に関する基本構想（案）

---

県都にぎわい創生協議会

2022年8月23日

# 1. 背景・目的

- 福井商工会議所による提言（「福井駅周辺地区のまちづくりに関する提言—県都再生、ラストチャンス—」（2020年6月））を受け、2020年7月に福井県・福井市・福井商工会議所の3者で**県都にぎわい創生協議会**〔座長：八木誠一郎 福井商工会議所まちづくり・交通委員会委員長（当時）〕が設置された。同協議会では、北陸新幹線福井・敦賀開業及び大阪延伸等の好機を活かした県都・ふくいを中心市街地である福井駅周辺地区の再生・まちづくり等を目的として、2040年に向けたグランドデザインと北陸新幹線福井・敦賀開業を見据えたコンテンツづくりについて協議することとなった。
- その後、2021年7月および10月に開催された同協議会のエリアマネジメント部会では、福井市中心市街地に必要な新たな機能や支援策などについて検討を行い、それを受けて2021年11月開催の第3回県都にぎわい創生協議会〔座長：野坂鐵郎 福井商工会議所まちづくり・交通委員会委員長（現在）〕では、同部会からの提案として、「**2040年のグランドデザインの目標（案）**」が示された。この目標（案）では、まちなかに求められる新たな機能として「**アリーナ機能と芸術・文化活動の拠点となる機能が必要**」であることが合意された。
- 2022年2月開催の第4回県都にぎわい創生協議会では、マーケティングリサーチの結果をもとに、アリーナ機能の具体化を図ることが合意され、その建設候補地として、「**福井市東公園**が福井駅からも近く、中心市街地のにぎわいづくりには最適である」との方向性が示された。
- 同年5月開催の第5回県都にぎわい創生協議会では、建設面積、席数、利活用、整備スキーム、スケジュール等、策定中のアリーナ基本構想の検討状況について報告を行った。
- 福井県においては、同年5月にバスケットボールクラブの運営会社が創設され、2023年にB3リーグからスタートし、将来的には2026年に開幕する**新B1リーグ入りを目指す**としている。**新B1リーグに所属するには、収容人数5千人以上の専用アリーナ、サブアリーナ、及びアリーナにはVIPルームや飲食施設、ラウンジ等が必要**とされている。アリーナの稼働率を高め、賑わいづくりのためにも同チームのホームアリーナとすべく、今後B1リーグに確認しながら、この要求条件を満たすものを目指すこととなった。



## 2. 整備・運営方針

### (1) コスト効率性の徹底

- ・アリーナの平常時の設備機能、および各スペースは最低限の機能で計画し、床面積は最小化を図るが、多様な用途に対応できるようにする。
- ・各種イベント等に柔軟に対応できる環境を整え、仮設にて各機能を補完・拡張し、構造的に最も合理的かつローコストな計画とする。
- ・維持管理も保全・清掃が容易になるよう工夫し、華美なものや劣化の速い素材を避け、コスト効率の高い素材を採用する。
- ・コンサート等の誘致については需要を鑑み、常設で5千席程度を目途に整備する。

### (2) スポーツ観戦の機会を充実させる施設づくり

- ・県・市内外からの人々の交流施設として、まちなかでスポーツを観る、自らがすることを通して、地域交流の促進を図り、県都のまちづくりに貢献する施設とする。

### (3) 多世代交流が図られる施設づくり

- ・スポーツ興行やコンサートなどのイベントに利用しやすく、地域活性化の拠点とする。
- ・スポーツ大会をはじめ、コンサートなどのエンターテインメント、会議・展示会・集会などのコンベンション等の開催によって、多世代交流を行える環境をつくる。
- ・DXの活用等を総合的・有機的に組み合わせ、周辺既存施設にはない演出効果の高い施設とする。

### (4) 多目的な施設づくり

- ・スポーツ、コンサート、コンベンション施設としての使用のみならず、防災施設・拠点、県民・市民の憩いの場、地域スポーツクラブの活動拠点、また新たな産業創出の拠点とする。

# 3. 運営ビジョン

## 運営ビジョン

スポーツ・文化・エンターテイメントによる**福井駅周辺の新たなにぎわい拠点の創出**

→ **北陸新幹線開業後のさらなる交流人口の拡大と地域経済の発展のための交流拠点の整備**

### 事業候補地

場 所	福井市東公園
敷地面積	31,008㎡
都市計画等	第1種住居地域／都市機能誘導区域／運動公園／地震時指定緊急避難場所

### 主な施設機能

施 設	規 模	内 容
アリーナ	5,000席程度	スポーツ、文化、コンベンション等多様な利用に対応
設 備	大型、4面大型・リボンLEDビジョンや5Gを活用したAR・VR等観戦など最新設備を導入	
面 積	敷地面積 10,000~12,000㎡程度	延床面積 13,000㎡程度（付帯機能等含む）
付帯機能	サブアリーナ、飲食（ホワイエ内）、駐車場 等	

### 施設利用の想定

#### スポーツ エンタメ

- ・ Bリーグ、フットサル、ハンドボール、Vリーグ 等
- ・ ダンス・チアダンス、コンサート 等
- ・ eスポーツ、スケートボード、パラスポーツ 等

#### コンベン ション

- ・ 学会・団体などの全国大会、展示会 等

#### 健 康

- ・ ジム、ランニング、ウォーキング、健康測定 等

#### 観 光

- ・ 恐竜ライブショー、食のイベント 等

#### 利用想定 日数

- ・ プロスポーツ（Bリーグ：3,000~5,000人程度）60日程度
- ・ コンベンションや展示会、コンサート（3,000~5,000人程度）90日程度
- ・ アマ・学生スポーツ、地域利用（文化・スポーツ活動）200日程度





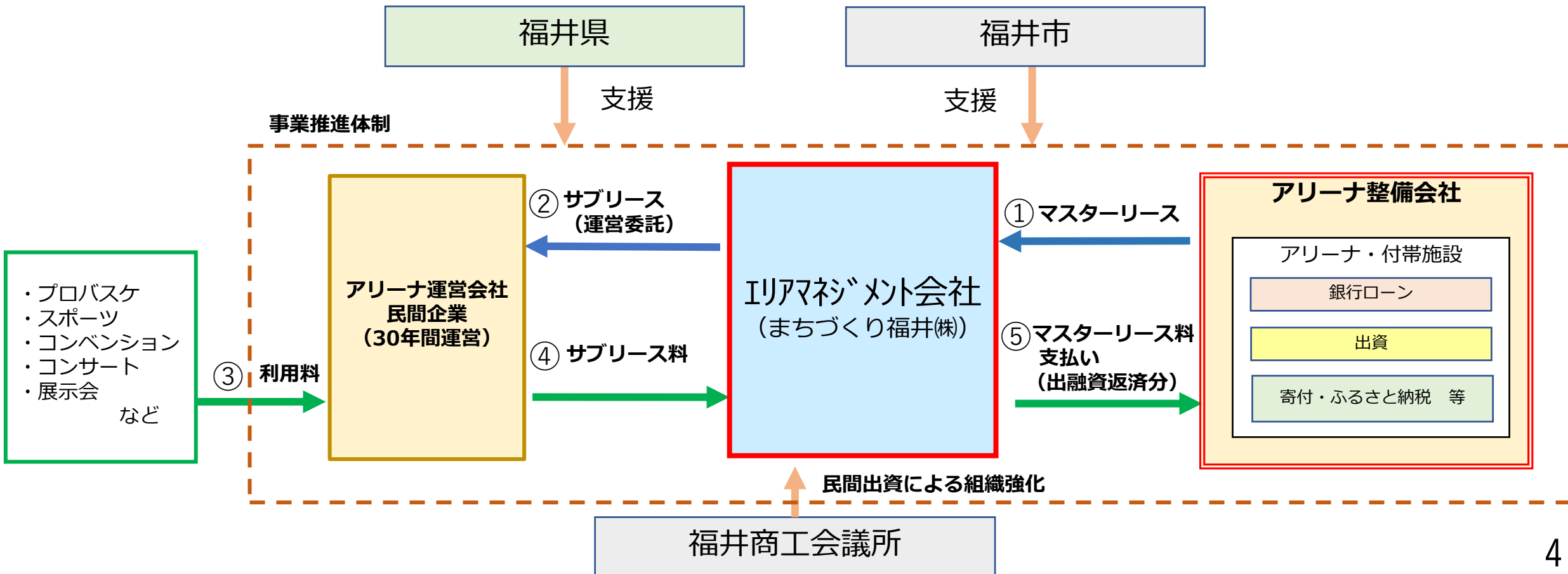
# 4. 整備・運営スキーム（案）

## <民間主体の整備・運営＋行政支援>

経済界：エリアマネジメント会社の組織強化を図りながら、民間の主体的な整備・運営（民間資金・ノウハウの活用）により、駅周辺のにぎわいづくりとしてアリーナの整備・運営を先導。

福井県：プロスポーツなどの観戦機会や県民への地域スポーツ・部活動等の機会を創出。

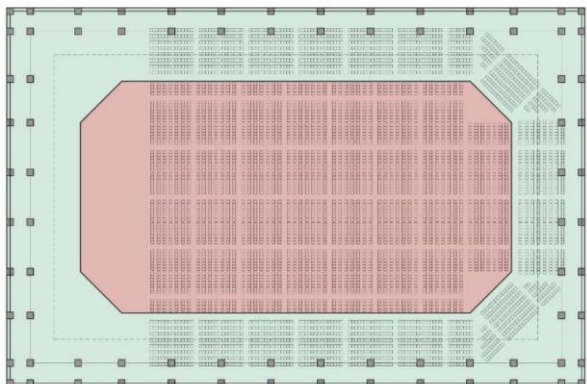
福井市：土地の貸付、地元調整、都市計画変更など、民間が整備・運営しやすい環境を確保・提供。市民が利活用する機会を創出。



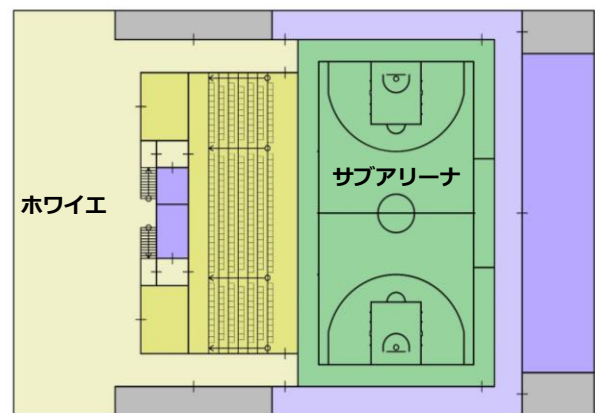
# 5. 配置イメージ



メインアリーナ  
コート囲い型座席配置



メインアリーナ  
ステージ型座席配置



サブアリーナ



Google 地図データ ©2022 日本

敷地面積 10,000~12,000㎡程度  
延床面積 13,000㎡程度 (付帯機能等含む)

建物高さ (想定)  
メインアリーナの高さ 25m程度 (7階建相当)  
サブアリーナとホワイエ 3階建相当

# 6. 経済波及効果

## (1) 運営による波及効果

### イベント開催による来場者見込

イベント内容	年間来場者見込
Bリーグ	120,000人
スポーツイベント	60,000人
コンサート・コンベンション	360,000人
計	540,000人

来場者による入場料や交通、飲食・物販、宿泊等による  
駅周辺・県内での消費額 → **年間40億円**

波及効果

**年間54億円** (福井県産業連関表による試算結果) × **30年**  
**1,620億円**

## (2) さらなる波及効果を及ぼすための仕掛け

- ・まちづくり福井や地元商店街等と連携し、駅周辺に賑わいを創出
- ・周辺エリア飲食店との連携  
→周辺エリア飲食店とのネットワークを構築し、イベント時の相互送客を実施  
(イメージ)



※ゼビオアリーナ仙台での取組事例

- ・アリーナ施設内外でのブース出店  
→イベント開催時に施設内や屋外スペースに地元飲食店の出店を促進  
(イメージ)



- ・地域観光資源と連携した、朝市・マルシェ等の開催  
→アリーナ内外各スペースを活用し、観光と連携した出張朝市やマルシェ等を積極開催  
(イメージ)





(1) 防災施設・機能  
災害時の避難施設、防災機能



(2) 地域スポーツクラブの活動  
子どもから大人まで利用しやすい施設



(3) 新たなスポーツビジネスの創出

(4) アスリートのセカンドキャリア育成

